

「きいちゃん」(中2)の授業について

1 はじめに

表題の授業をするということで相談を受けました。「道徳の読み物資料では主人公の心情を読み取るのではなく、資料から道徳的価値について考える。」ということをもとに授業展開を考えました。1時間の授業で出す発問は次の通りとしました。

<読み物資料>

内容の理解を深める補助発問を2～3つ

資料から道徳的価値について考える発問を1つ

<生活の振り返り>

読み物資料を踏まえて生活の振り返りから道徳的価値を考える発問を1つ

2 授業展開

- (1) 教材名 きいちゃん / (2) 主題名 家族のきずな
(3) 内容項目 C-(14) 家族愛、家庭生活の充実
(4) ねらい 自分も家族にとってかけがいのない存在であることに気づき、家族の一員としての役割を果たそうとする心情を育てる。

(1)～(4)は指導書より

(5) 授業展開

<資料からの発問>

発問1 「きいちゃん」ってどんな子ですか。」

→ ペアで交流する。全体で交流する。

※ p187 47～「きいちゃんは、小さいときに高熱が出て、それがもともとで手や足が思うように動かなくなっていました。そして、高校になった今でも、訓練をうけるためにお家を遠くはなれて、この学校へきていたのです。

p190 45～「妹は、小さいときに高い熱が出て、手足が不自由になりました。そのために家から離れて生活しなくてはなりませんでした。」

※答えの根拠を追加して質問しても良い。

発問2 p187 43 きいちゃんは、なぜ「わたしなんて、生まれてこなければ良かったのに…」と言ったのでしょうか。

→ 班で解決する。全体で交流する。

※「おかあさんから結婚式に出ないでほしいと言われたから」ということではなく、「わたしのことがはずかしいのよ。おねえさんのことばかり考えているの。」という記述をもとに、私の思いについて深く考える。

※おかあさんから大切にされていないということで、自分には存在価値がないと思えたから。

発問3 p191 412～ きいちゃんが「うんでくれてありがとう。」とお母さんに話したのは、なぜでしょうか。

→ 班で解決する。各自が道徳ノートの「考えてみよう」に自分の言葉で書く。

→ 全体で交流する。

※おねえさんが自分のことを大切に思ってくれている。

おねえさんが自分のことを認めていることが分かり、自分の存在価値が自分自身で理解できたから。

<生活の振り返りからの発問>

発問4 自分が家族から大切にされているなあと思った経験はありませんか。

→ 班で交流してから、道徳ノート“自分に+1”に書く。

※言いたくないことや、書きたくないことは、言わなくて良いこと、書かなくて良いことを伝える。

→ 全体で交流する。

※挙手により発表させる。

「言いたくないことは言わなくてよい」ことを伝え、それでも、発言するという生徒を指名する。

発問5 家族を大切にすることは、どういうことでしょうか。

→ “振り返り”に書く。

→ 班で交流してから、振り返りに記述しても良い。

→ 時間にゆとりがあれば、全体で交流を行う。

※“発問4”では、経験したことを書く。“発問5”では、これからのことを書く。

3 おわりに

「本当に全員が取り組んでいるか」というのが最近の私のテーマです。自分の考えを書くとき、課題の内容は理解できているが、何を書いているのかよく分からないという生徒がときどきいます。これを解決するために、班で交流してから書いたり、班で解決してから自分の言葉で書いたりしてはどうかと考えています。

ぜひ、実践していただき、成果と課題を共有したいものです。